

平成28年度 自己点検・自己評価(結果)

学校番号	24	学校法人静岡理工科大学 静岡北高等学校	記者	廣住雅人
------	----	---------------------	----	------

学校教育目標	1. 常に誠実で、清らかな心をもって物事に真剣に取り組むことができる人材を育成する。2. 現状に甘んじることなく、日々新しいものを創り出そうとする気持ちを持ち、何事にも積極的に挑戦していく人材を育成する。3. 技術の進歩が著しい今日、大学院・大学・専門学校という高等教育機関の場において、高度な科学技術を習得できるように、基本的な学習を身に付ける。	【総合評価】 重点目標のうち、「目標生徒数を獲得する」こそ達成できなかったが、他の目標を含め全般的には推進されたと判断する。建学の精神「社会に貢献する人材の育成」、校訓の「質実剛健」「創意実践」、そして生徒・教職員共に「切磋琢磨」の気持ちを忘れずに日々取り組んでいたと判断できる。学業成績の大幅な上昇はすぐには成果として表れにくいものの、生徒の日々の行動の変化(挨拶、服装、言動)には目を見張るものがある。地域や外部からの評価も高まりつつある。	
教育方針	将来、科学技術に夢と希望を持ち、創造性豊かな人材育成の基礎をつくる。		
今年度の重点目標	評価	成果と課題	次年度の取組
1 21世紀型スキルが身につく教育を展開する (1) 各教科、学校行事、課外活動において、主体的・協働的な学び(いわゆるアクティブラーニング)を重視し、教員・生徒が実践する。 ※ OECD国際教員指導環境調査(TALIS)では、日本の教員は主体的な学びを引き出すことに対しての自信が低く、多様な指導実践の実施割合は低い。 (2) ICT教育を、各教科と国際交流で積極的に活用・実践し検証する。 (3) 理数教育とともに、SSH事業を推進する。 中間評価や科学技術人材育成重点枠不採択の反省・改善点を基に、SSH事業計画を推進し、平成29年度から平成33年度までの第3期目指定と重点枠採択に向かう。	3	主体的・協働的な学び(いわゆるアクティブラーニング)の意識付けは行われた。ICT教育の推進は図られたが、国際交流の点では積極的な活用までは不足している。理数教育は推進してきたが、SSH事業は平成31年度までの経過措置校となる。	時代が求める教育(21世紀型教育)を推進するために、各教科で横断的な活用を実践する。
2 グローバル教育を展開する (1) 他の教育機関と協力しながらグローバルな研究活動(広義)を実施する。 (2) 海外経験を積み上げるための留学制度・語学研修を再構築する。	4	海外語学研修(オーストラリア)や留学生徒の人数が増加してきた。留学制度については認定単位の確定などの刷新が図られた。	修学旅行、海外語学研修、海外(国際)交流や、個人的な留学を留学制度を通して、国内外におけるグローバル教育を推進する。
3 連携教育を推進する (1) 法人内傘下における中学・高校としての使命を果たす。 (2) 「中高一貫」、「高・大一貫」、「高・専一貫」メリットを広く広報し、中学・高校への入学者を増加させるとともに、法人内学校への進学者を増加させる。 (3) 連携教育による、連携教育のための基礎学力を育成する。	4	最終的には、法人内大学に34人、法人内専門学校に51人を入学させることができ、法人内傘下高校としての使命を果たすことができた。高校入学前の中学生に対する広報活動も積極的に行われ、入学後も1年生に対する広報活動が、法人内専門学校の協力でできた。	時代に合った質の高い一貫教育を展開し、その有益性を最大限にPRし、法人内各学校への進学者を増加させる。
4 教育成果・教育改革のPDCAサイクルの一端を担う進路指導・進路実績の再構築 6の(3)に共通する。 (3) 指導部 ア 生徒への適確な進路指導を行い、外部発信に繋がる進路実績を生む。 イ 教務部と連携し、大学入学者選抜改革、高大接続改革に備える。	4	進路指導・進路実績は、外部に向けての本校の指標になる。国公立大学の実績に加え、難関私立大学への合格も増加してきた。学校推薦での就職率は、100%を達成した。大学入学者選抜改革、高大接続改革に備えて、情報収集のための出張や研修は数多く実施された。	新大学入試制度に対応する教育を展開しながら、国公立大学を中心に難関大学への合格者数を増加させ、進路学校としての地位・認知度を高める。
5 目標生徒数を獲得する 中学・高校共に目標生徒数獲得の母数となる志願者数の増加とともに、高い学力層の獲得に努める。 静岡北高校 440人(内進生を含む) 静岡北中学校 60人 (1) きめ細やかな教育を展開し、地域・社会から信頼される教育を実践する。 (2) 他校との差別化を図れる広報媒体を作成し、あらゆる機会に広報する。 (3) 教員のプレゼンテーション能力を向上する。	2	高校は目標生徒獲得数を大幅に下回った。しかしながら、(1) きめ細やかな教育を展開し、地域・社会から信頼される教育を実践した。(2) 他校との差別化を図れる広報媒体を作成し、あらゆる機会に広報した。(3) 教員のプレゼンテーション能力が向上した。	上記4点を着実・確実に実践し、自校及び法人の健全な運営体制を維持するため、目標入学者数(440人)を確保する。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績	成果と課題	次年度の取組	
学校経営	設定された教育目標にそい学校経営計画書が作成され、それに基づいた教育活動を展開する。	教育目標、学校経営計画書、教育活動	成果に満足することなく、各分掌官の連携をとりながら、高校教育改革・大学教育改革を見据えながら学校経営に挑戦する。	校長との情報交換を密にすることで、各教員が自分のミッションをよく理解し、計画された施策を実行し、外部から高い評価を受ける教育を展開した。	4	各分掌官の連携をとりながら、高校教育改革・大学教育改革を見据えるために、外部で行われる研修に積極的な参加した。	平成29年度から5年間の第3次中期計画に基づいた学校経営を行う。
教育課程・学習指導	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。	教育課程、学習目標・計画・指導、課題実施、学習状況把握	新学習指導要領に基づいた新教育課程の編成をにらみながら、中高の接続や学科再編等の検討を考える。また、個々の教員のスキルアップをしていくことで、どの教員も個々の生徒の学習レベルに適した授業展開を行う教育環境を整える。	新学習指導要領に関する研究は、教員への情報提供にとどまった。教科部会で情報交換をすることで進捗・内容に関する調整を図ることはできた。また授業アンケートをもとにした授業改善は行われたものの、十分なスキルアップ研修は行われなかった。	4	新学習指導要領に基づいた新教育課程の編成をにらみながら、中高の接続や学科再編等の検討を行う。また、個々の教員のスキルアップをしていくことで、どの教員も個々の生徒の学習レベルに適した授業展開を行う教育環境を整えることを推進した。	新学習指導要領に基づいた新教育課程の編成をにらみながら、中高の接続や学科再編等の検討を行う。また、個々の教員のスキルアップをしていくことで、どの教員も個々の生徒の学習レベルに適した授業展開を行う教育環境を整えるようにする。
生徒指導	健全な高校生活を送れるような生徒への啓発活動を行い、個々の生徒へのサポート体制を家庭との協力のもと確立し、生徒理解に努める。また自立した生徒の育成のための支援をする。	生徒への啓発活動、家庭との連携、事前・事後指導体制、人間教育、生徒理解、基本的な生活習慣の確立、自立した生徒の諸活動	問題行動を起こさないといった気持ちを持つ生徒を育成する。また、一層複雑になる社会環境の中で、心の病を抱える生徒たちに対しては、個々の生徒に応じた適切な指導体制を整える。加えて、社会に出る心構えとして、改めて基本的な生活習慣を確立する。	学校全体では生徒指導課、学級では担任による指導がタイムリーに展開され、問題行動を起こした生徒への対応や悩みを抱える生徒への対応が迅速かつ的確に行われた。	3	問題行動を起こさないといった気持ちを持つ生徒を育成している。多くの生徒が言動面で落ち着いた学校生活を送っている。また、一層複雑になる社会環境の中で、心の病を抱える生徒たちに対しては、個々の生徒に応じた適切な指導が行えた。	生徒自ら及び生徒集団が健全な高校生活を送れるよう支援(指導)する。また、悩みを抱えた生徒には、個々の生徒へのサポート体制を家庭と協力し生徒理解に努める。
進路指導	学校の方針に基づいた進路指導を展開し、個々の生徒の進路希望に即した緻密な指導を実行する。また、本校独自のキャリア教育を実施する。	学校の方針に基づく進路指導、生徒への情報提供、個々の生徒への対応、就職指導、進路指導、キャリアパートナーシップ事業	高校卒業後のさまざまな進路選択があると同時に、その後も「単線型キャリア」、「複線型キャリア」等、生徒の将来は多種・多様である。それに対する基本的指導を教員の共通理解のもと行う。	日常生活の中で生徒自らがPC教室の利用による情報収集や教員からの情報提供により、早期段階から進路意識を高める教育活動を実施することができ、確固たる進路実績を成果として残すことができた。また、キャリアパートナーシップに関しては、法人内・間の高等教育機関の協力を得ながら、受け入れ事業所を拡大することができた。	3	高校卒業後のさまざまな進路選択があると同時に、その後も「単線型キャリア」、「複線型キャリア」等、生徒の将来は多種・多様である。それに対する基本的指導を教員の共通理解のもとに行うことができた。	生徒の希望する進路(上級学校への進学、就職)が実現するように、1年次～3年次まで計画的な進路指導を行う。
安全管理	日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険個所の定期的な点検、スクールバスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる必要がある。	防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行	防災意識の継続的啓発活動の実施と安全管理に関しては、現状以上に意識を高める。加えて、教員の危機管理に対する意識をさらに強める。	校内の危険箇所に関しては、学期の初めと終わりに危険個所の確認を実施した。スクールバスの運行に関連しては、公共の避難場所地図の配備、安全運転講習を実施した。	3	防災意識の継続的啓発活動の実施と安全管理に関しては、現状以上に意識を高めた。加えて、教員の危機管理に対する意識をさらに強めた。	日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをする。また、学校としても校内の危険個所の定期的な点検、スクールバスの安全運行を行う。
保健管理	生徒の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療活動を確実に行う。また部活動の活性化を図り、ボランティア活動に積極的に取り組む。	検診計画、健康管理指導、運動部・文化部の活性化、ボランティア活動への参加	治療勧告が出た生徒は、確実に直させる指導を徹底する。また、運動部・文化部共に今年度以上の成果が残せるような活発な活動を展開する。	校医との連携を取りスムーズな検診を実施できたが、治療勧告に関しては、昨年同様三者面談も通じて保護者の協力も得た。県大会出場運動部、東海大会出場運動部、全国大会出場運動部と活躍が目立った。	4	今年度は、養護教諭を中心とし、保健体育課の顕著な活動が見られた。治療勧告が出た生徒は、確実に直させる指導を徹底できた。法的措置に従った保健活動・安全活動が実施された。	平成28年度に引き続き、養護教諭と保健体育課が中心となり、生徒・教職員の健康管理、体力増強を推進する。また、生徒自らが健康管理・保健管理を行えるようにする。
特色ある教育	法人のスケールメリットをいかし、本校独自の高・大・高・専一貫教育を推進し学園全体の活性化を図る。また、課題研究を推進し他校との差別化を図りつつ、進路実績につなげる。	高・大・一貫教育、高・専一貫教育、外部機関との連携教育、SSH事業への取り組み、課題研究	高・大・一貫教育に関しては、ワーキンググループの答申を受けプランを推進するため法人・大学・高校の経営サイドの協力を得ながらプログラムの充実を図る。高・専一貫教育に関しては、高校・専門学校の教員の意識にずれが生じないよう、より連携を密にしながらい切った改革を検討する。また課題研究については、連携機関を海外に求め幅を広げ、さらにはより生徒主体の取り組みに移行していく体制を構築する。	高・大・一貫教育に関しては、大学と高校間でワーキンググループを作り、平成28年度入学生からの実施に準備を進めた。高・専一貫教育に関しては、高・専連絡会や普通科・学年部からの意見・要望が専門学校側に理解され、諸活動に反映されている。	4	高・大・一貫教育に関しては、ワーキンググループの答申を受けプランを推進するため法人・大学・高校の経営サイドの協力を得ながらプログラムの充実を図れた。高・専一貫教育に関しては、高・専専門学校の教員の意識にずれが生じないよう、より連携を密にすることができた。	法人のスケールメリットをいかし、本校独自の高・大・高・専一貫教育を推進し、自校及び法人全体の活性化を図る。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績		成果と課題	次年度の取組
組織運営	組織的な校務分掌体制を整え、規律をもって教職員が服務を全うする。また計画的な予算編成を中長期的な観点を考え行い、日常の経理業務を正しく管理する。加えて個人情報に関する管理、公文書管理を適切に行なう。さらに保護者・地域と連携した活動を展開する。	効果的な学校運営体制の確立、組織的な校務分掌体制、規律正しい勤務体制、連携した危機管理体制、計画的な予算執行、中長期計画の策定及び遂行、経理業務の管理、個人情報保護、公文書管理を適切に行なう。さらに保護者・地域と連携した活動を展開する。	組織をスリム化することにより円滑な組織運営ができるようにする。また、些細なことであっても報告・連絡・相談をしていくことで、情報の共有化を行い風通しの良い組織づくりをしていく。経理業務に関しては、中小期計画も時流で変化しているのでも併せて予算計画も変更していく。また、コンプライアンスが求められる時代の中の学校として、情報の管理意識、教職員の規範意識についても、継続して啓発活動をしていく。	評価項目・達成目標に対しての取組は希薄であった。また、部長会を通じて横の連携に努めたが、いまま共通理解に欠けたものがあった。職員の仕事意識に関する啓発はしっかりと行われた。危機管理に関しては、法人の連絡がやや遅かった。経理関係のことに限っては、管理、予算編成・執行共にしっかりと行うことができた。情報管理に関しては、プリントアウトされたものがプリンター上に放置されるなど若干の甘さがある。文書管理については、裏書き・報告書関係の保存を電子化するシステムを作ったが、逆に処分する体制作りができていない。	3	組織をスリム化することと円滑な組織運営ができなかった。報告・連絡・相談をしていくことで、情報の共有化を行い風通しの良い組織づくりはできた。経理業務に関しては、中小期計画も時流で変化しているのでも併せて予算計画も変更していくはできなかった。コンプライアンスが求められる時代の学校の学校として、情報の管理意識、教職員の規範意識について、啓発活動することができた。	現在、総務部・教務部・指導部の3部に各分掌が配置されているが、学校業務が多くなり各部・各分掌の業務が煩雑になっているので、組織と業務内容の精査を行う。
研修	学校の教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。	計画的な研修体制の確立、郊外研修への参加、研修報告会の実施	時代をとらえた研修内容を精選して実行し、さらに積極的な参加意識を持った教員集団が結成していく。さらに研修報告会を実施すると共に、次に何をしたらよいかを考える話し合いを実施していく。	教職員の資質・指導力向上のため、重点目標に基づいた校内研修計画が、立案・実行され積極的に参加した面もうかがえたが、理解・実行面・フィードバックの面で希薄であった。また、報告書の回覧はされたものの、報告会は実施されなかった。	3	時代をとらえた研修内容を精選して実行できた。さらに研修報告会を実施すると共に、次に何をしたらよいかを考える話し合いを実施することができた。	研修の有益性を生かし、教育を行う教職員の資質向上と、現状掌握とその共有化のための校内研修・中高合同研修を的確に実施する。
保護者、地域住民との連携	学校を支えてくれる保護者の会や外部団体との連携を強化し、学校運営を側面から支援してくれる組織の意見を受け入れながら、更なる本校の発展を目指す。	保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼	保護者の会との定例会がルーチンで終わることなく、積極的な意見交換の場として発展させていく。また、新たな支援団体の協力を得てキャリアパートナーシップを展開する。さらに地域住民が本校に足を向けたくなるようなイベントをSSH事業を中心に展開していく。そのためにも広報媒体としてホームページを積極的に活用し情報を発信を行う。	保護者の会との間では、定例会をスムーズに実施するために、三役と事前に口頭での説明と意見交換を行い連携を取ることができた。また、キャリアパートナーシップについては、法人内の大学・専門学校との協力を得て、独自に企業開拓を行うことができた。	3	保護者の会との定例会がルーチンで終わることなく、積極的な意見交換の場として発展させることができた。また、新たな支援団体の協力を得てキャリアパートナーシップを展開できた。地域住民が本校に足を向けたくなるようなイベントをSSH事業を中心に展開することができた。そのためにも広報媒体としてホームページを積極的に活用し情報発信が行えた。	学校を支えてくれる3団体(保護者の会、同窓会、教育振興会)との連携をさらに強化していく。特に地域や外部団体との連携を強化していく。
施設設備	施設設備の美化と定期的な点検を確実にし、安全管理に努め、生徒たちにしっかりと学習環境を整備する。	効果的な施設利用と環境美化、施設・設備の点検、学習環境の整備、図書館の活用	小教室の使い方指導と清掃を確実に実施する。修理依頼に関しては、文書で行うことを徹底する。また、生徒会の美化委員会を通じて美化意識の啓発活動を実施する。図書館に関しては、放課後の利用も考え照明を明るくする施設改善を実施する。	大事な行事前教室整備でワックスを掛けることが習慣化され、あえて実施日をうけず実行された。また、修理依頼に関しては口頭で受けた部分もあったが、「修理願」を提出しての対応がほぼできた。図書に関しては、取り組む生徒が広がる課題研究に関する関連図書を充実させることができた。	4	小教室の使い方指導と清掃を確実に実施した。修理依頼に関しては、文書で行うことを徹底できた。また、生徒会の美化委員会を通じて美化意識の啓発活動を実施した。図書に関しては、放課後の利用も考え照明を明るくする施設改善を実施することができなかった。	大規模事業計画である中学棟・親和館(特別棟)に替わる複合施設と体育館の建設に向けた計画を検討する。また、高校棟内の施設・設備の整備を推進する。
				総合評価	3		